

# 久能山 東照宮

国宝



kunozan toshogu



## 久能山東照宮

天文11年(1542)12月26日、三河国岡崎城(愛知県岡崎市)に生まれた家康公は、艱難辛苦の末、戦国時代に終止符を打ち江戸時代約260年にわたる、長期平和の礎を打ち立てました。また学問、産業、文化の基礎を確立し、晩年は駿府城に隠居されましたが、元和2年(1616)4月17日75歳で薨去(こうきょ)、御遺命によりその夜、当山に葬られました。その後、東照大権現として平和、開運、学問、厄除の神として崇められ、東照宮の創祀として全国から幅広い崇敬を受けています。



久能山総絵図

## 史跡 久能山

標高216メートルの久能山。眼下に駿河湾を見下ろし、東に伊豆半島を南は遙かに御前崎を一望できる景色が広がっています。久能山の歴史は、推古天皇の御代(7世紀頃)久能忠仁が開山し寺を建立、「補陀落山久能寺」と称したことに始まります。平安時代末期から鎌倉初期にかけて興隆を誇り大寺院となったといえます。永禄11年(1568)には、駿河に侵攻した武田信玄により当山が要害であることから、久能寺を近くの北矢部(現・鉄舟寺)に移し、城壁を設け、久能城と称しました。武田家が亡びて駿河国が徳川家に領有するところとなり、久能山も徳川家のものとなりました。徳川家康公は薨去の際、榊原照久に「久能山は駿府城の本丸と常に思召す」と言われたと伝えられています。

## 久能山東照宮文化財保存顕彰会のご案内

当宮の御社殿をはじめ諸建造物や博物館収蔵の文化財、またそれらをとりにくく久能山は、かけがえのない国の宝です。この貴重な文化財を後世へとつなぐため、みなさまのご協賛をお願い申し上げます。ご入会の方につきましては、下記へお問い合わせ下さい。

## 久能山東照宮

〒422-8011 静岡県静岡市駿河区根古屋590  
TEL.054-237-2438 FAX.054-237-9456  
<https://www.toshogu.or.jp>



## 久能山東照宮博物館のご案内

収蔵する資料の多くは、奉納になる東照宮伝世の宝物で、総数2,000余点(国宝・重要文化財230点)を数えます。特色は家康公のお手回り品がまとまっていること、徳川歴代将軍の武器・武具が多いこと。このほかに装身具・調度や染織品、将軍直筆の書画もあり、武家文化の神髄を堪能させるものとして国内外から注目されています。

### しだぐそく 歯朶具足 [重要文化財]

家康公が霊夢により奈良の甲冑師に命じて作らせたもので、兜に歯朶の前立てが添うところから歯朶具足と呼ばれます。家康公が関ヶ原合戦に着用し、大坂の陣にも身近くに置いて勝利を得たことで尊ばれました。



### 家康所用 きんだみぐそく 金陀美具足 [重要文化財]

桶狭間合戦の頃、尾張の大高城が織田信長のために糧道を絶たれ困窮していた際、今川義元の属将だった松平元康(家康公)は重囲を冒して兵糧を搬入するのに成功しました。この具足は、そのとき元康が着用していたものと伝えられています。



### 日本最古の洋時計 [重要文化財]

家康公の愛用品で、スペイン船難救助のお礼としてスペイン国王フェリペ3世より贈られたものです。スペインの時計職人ハンス・デ・エバロ製作、現存するゼンマイ式機械時計としては日本最古。平成24年5月、大英博物館の時計研究員の調査では、「世界的に珍しく貴重。当時として最高の技術で作られた傑作」と評されました。



### 秀忠公寄進

ざねつね

### 太刀 銘 真恒 [国宝]

秀忠公が元和3年12月の正遷宮に際し、東照宮に奉納されたもの。備前国真恒の作、細身で小鋒の優雅なものが多い平安時代の太刀の中で、大振りて身幅の広い豪壮な姿が特徴です。





# 御社殿

御社殿(権現造)

本殿と拝殿を床の低い「石の間」でつなぐ形式をもつ複合社殿。総漆塗り仕上げ、要所に彫刻、鍍金具などを用いて荘厳化を図り、創建当時の質の高い建築・工芸技術を伝えています。大工頭中井正清の手がけた代表的な建築の一つとして貴重であるとともに、家康公を「東照大権現」と称することから「権現造」と呼ばれ、その後、全国に数多く創建された東照宮の原型となったのです。平成22年12月に国宝に指定されました。



拝殿・墓股

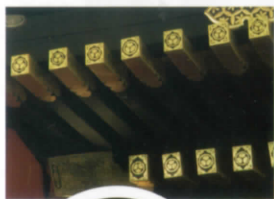
(かえるまた)部中国の故事、政治家・司馬温公の「夔割り」の彫刻。子供の頃、一緒に遊んでいた友が水甕に落ちてしまったのを救うため、高価な甕を割った少年の物語で「命の大切さ」を表しています。



## 夔割りの彫刻

# 逆さ葵

社殿・屋根よく見ると葵の御紋が「逆さ」に。これは建物が未完成であることを表し、さらなる発展への願いが込められていると言われています。



# 実割梅

家康公が駿府城で自ら育てられていたもので、江戸時代、駿府城ではこの実割梅から梅干を漬け、東照宮に納める仕来りでした。明治9年に駿府城から東照宮へ移植されました。



人の一生は重荷を負て速き道を行くが如し急ぐべからず不自由を常とおもへば不足なしここに望おこらば困窮したる時を思ひ出すべし堪忍は無事長久の基いかりは敵とおもへ勝事ばかり知りてまくる事をしらざれば害其身にいたるおのれを責めて人をせむるな及ばざるは過ぎたるよりまされり

慶長八年正月十五日家康花押

## 東照公御遺訓

生涯をかけて平和な国づくりを成し遂げられた家康公の理念や理想の精髓は「人の一生は」ではじまる「東照公御遺訓」として今日につたえられております。その内容はごく簡単な言葉ではありますが、実行はなかなか難しい逆さ葵3のものであります。家康公はこの御遺訓通りの御生涯を歩まれ世界に類のない長期平和の礎を築かれたのです。



## 楼門

楼門の2階部分には二代将軍秀忠公の娘を中宮(皇后)として迎えた後水尾天皇が自ら命名し書かれた「東照大権現(家康公の神様としての御名前)」の扁額(へんがく)が掲げられ、勅額御門とも言われています。

家康公のお墓

家康公の遺骸が埋葬された場所に立つ廟です。当初は小さな祠が建てられていましたが、3代将軍家光公によって高さ5.5m、外廻り8mの石塔が建てられ現在に至っています。家康公の遺命により、生誕地である岡崎や豊臣家の拠点であった大坂を望む西向きに建てられています。



御神木



家康公が家臣に「よるず程のよき(万事のよき)」「志ひふかき(慈悲深き)」「志やうちき(正直)」と三本の幹を描き、「これを常に信ずれば必ず富貴が得られよう」と仰いました。この遺言に由来して、神廟のそばの大きな楠を「金の成る木」と称しています。

# 家康公の神廟 金の成る木



- 御前崎～久能山東照宮～富士山～世良田東照宮～日光東照宮
- 久能山東照宮～駿府城～鳳来山東照宮～岡崎城～京都
- 江戸城～日光東照宮～北極星

## 表参道

山下石鳥居より本殿前まで17曲り1,159段あります。昔の人は「いちいちごろうさん」と洒落をいながら登ったそうです。日本平ロープウェイが開通するまでは、この表参道が唯一の参拜路でした。



# 東照宮を巡る 聖なる三本のライン

家康公のご遺言

本光国師(金地院崇伝)日記によると元和2年(1616)、家康公は病の重態なるを知り、「遺体は駿河の久能山に葬ること」「葬礼は江戸の増上寺に於いて行うこと」「一周忌過ぎて後、下野の日光山に小堂を建てて祀り関八州の鎮守となるべきこと」などを遺命しました。